

ライフサポート：はた

NO 10 : 2013. 10. 21

四万十市中村大橋通7丁目1-24

連合高知西地協内 TEL:34-9191

発行責任者：事務局 石井 孝

「LSC（ライフサポートセンター）相談員研修会」に参加して

幡多ライフサポートセンター 曾根 司公

11月10日～11日に大阪で「LSC相談員研修会」があり、石井、松廣屋、宮本、幾久、曾根が参加しました。

これは毎年、西（大阪）と東（東京）とで行われている研修で、相談員としての心得や、相談に来られる方の現状、そして行政が行う支援システムなどの状況について、心理カウンセラー・大学教授・司法書士などにより「講演」と「演習」・「ロールプレイ」形式で行われました。参加したLSCは、愛知県から沖縄までの14県のLSCで、33名の相談員が参加していました。



ロールプレイの状況
(2名が相談者と相談員に分かれ、その状況をグループごとで評価し話し合う)

(研修内容)

心理カウンセラーによる、相談に来られた方への相談員の対応では、「聞き上手」でなくてはならないこと、「尋ねる (Ask)」ではなく「聴く (Listen)」ことが大切であり、「相手の心に寄り添う聴く力」が要求されるとのことでした。

また、破産などで生活困窮者（生活保護等）に陥る原因としては、ギャンブルや遊興娯楽による浪費が原因と思われがちだが、日本弁護士連合会の調査では全体の4%程度と少なく、生活保護の不正受給についても全体の0.4%程度とのことでした。このことは非正規雇用の増加などにより、真面目に働き生活していても、生活困窮に陥る方が数多くいることを物語っています。

そのほか、社会状況の変化に伴う労働者のストレスが増加より、メンタルの病が増加してきたことや、行政のセーフティネットの現状など盛り沢山の研修内容でした。

日程的には、朝5時出発で初日は午後7時までの研修となっていたことや、講師や受講者が熱心なあまり予定時間を1時間も超過してしまったことなど、かなりハードな研修ではありましたが、相談を受ける者として必要な知識や技術を身に着けるためには、大変有意義な研修でした。

・ = (石井事務局長が事例発表の時、機転を利かし時間調整してくれました。感謝！)

なお、各県の相談員の方々は、殆どが常駐の相談員のような様子でした。